

編集後記

松永先生の後を受けて編集委員長を担当しました。皆様のご協力により 6 巻 1 号を完成させることができました。特に原稿の編集作業を一手に引き受けてくださった朝廣先生には深く感謝いたします。

情報科学会誌には第 4 巻まで付録として CD-ROM がついていましたが、第 5 巻から経費節約のため CD-ROM の発刊を取りやめています。情報科学会誌の内容はバックナンバーを含めて情報科学部のウェブページ (<http://www.is.kyusan-u.ac.jp>) でも公開していますので、お近くの方にもご紹介いただければ幸いです。

これで 2 年間の編集委員の任期を終了します。原稿を執筆いただいた皆様に改めて感謝しながら、次の編集委員の先生方にバトンを渡したいと思います。(宮崎)

本年度から編集委員に加わりました。編集委員とはいえ結局編集は行わず、どうしてこんなに多くの原稿を書かなければ成らないだろうかとブツブツ言いながら自分の担当原稿に追われるばかりでした。作成した原稿は WORD 原稿のため、他の編集委員の方々に大変なご迷惑をお掛けし申し訳なく思っております。ひとむかし前と比べるとソフトもずいぶん使いやすくなりましたが、まだまだ、早くもっと互換性を持ち使いやすくないかと勝手なことを思っております。(花野井)

編集委員 2 年目です。研究業績と学会活動、社会貢献、卒業論文と修士論文の一覧等を作成しました。皆様のご協力有難うございました。(アブドゥハン)

今年度から編集委員に加わり、編集作業を担当しました。大部分の記事は L^AT_EX によるものですが、一部は Word で作成されています。L^AT_EX で提出されたものをそのまま掲載しているもの、Word で提出されたものをそのまま掲載しているもの、Word で提出されたものを L^AT_EX により整形しなおしたものの、3 種類の記事が存在します。暇な方は、どの記事が Word によるものか探してみる (想像してみる) のもよいかもしれません。L^AT_EX, Word それぞれで執筆される記事をうまく統一的に扱って編集することができればよいのですが、今のところ良い方法を思いつかないところです。そのため、様式が若干異なっている部分が存在しますが、ご了承下さい。次の巻への課題ということで。(朝廣)